

【鴨部】 中村

12 嶋御門神社

13 豫中神社



嶋御門神社 うっそうとした鎮守の森となっている。



豫中神社 イチョウの大木があった。

春の大祭は大変にぎやかで、嶋御門神社から鴨部小学校のお旅所、そして豫中神社へとお神輿と獅子が舞う。嶋御門神社は、平家が滅びた年の1185年に河野氏(河野通信)によって三島の神を迎えて創建されたと伝わる。アカガシをはじめ多くの大木がある。豫中神社も、河野通信によって名づけられたと言われている。社殿の周囲には、クスノキやイチヨウの大木がある。最も大きなイチヨウの木の切り株が残っている。すぐそばにある龍田神社は風の神様。9月に台風を鎮め、豊作を祈るお祭りが行われる。

14 医王寺



宝幢山薬師院。大変きれいに掃除が行き届いた静閑なお寺。本尊は薬師如来。清和天皇の時代(858〜876)に伊予の国河野氏(河野深躬)の命により、宥徳上人が開山した。河野氏と深い関係があり、当初は、北条の高繩寺が本寺だった。戦国時代、河野氏の侍大将で幸門城最後の城主だった正岡右近太夫経政公とその枝城であった中村の米田城主別宮修理太夫光貞の墓と伝えられている高さ約2mの立派な五輪塔が2基ある。



15 弘坊さん (重利大明神)

嶋御門神社のすぐ近くにお堂があり、高さ70m程の立派な一石五輪塔(一つの石柱に五輪塔を刻んだもので、室町後期から江戸時代初期に造られたものか)が祀られている。



タヌキ伝説は紙芝居になっている。

このあたりに住んでいた、3匹のタヌキの伝説が残っている。いたずらをしたり、人にとりついたりと悪さをしていたタヌキが改心し、今も村を守ってくれている。